

コロナ禍を乗り越え
再び紡ぎ直す人と人との「つながり」



INDEX

ヤングケアラーが自分の人生を生きるために地域にできる支援とは	2
孤立・孤独にむきあい、多様性が大切にされる地域をめざして	4
“その人らしい”社会参加に向けて	6
わたしたちのしあわせを考える座談会	8

より便利に 使いやすく

**ホームページ
リニューアルしました!**

ぜひご利用ください! [京都市社協](#) 🔍

- 必要な情報が探しやすい
- 文字が大きく読みやすい
- スッキリと見やすいデザイン

ホームページは
こちらから



ヤングケアラーが 自分の人生を生きるために 地域にできる支援とは

子ども・若者の孤立と孤独 ～ヤングケアラーの現状と課題から～

齋藤 真緒 さん（立命館大学産業社会学部 教授）

今、中高生の約20人に1人が「ヤングケアラー」であると推定されています。社会的孤立を抱えつつも個人や家族の問題として見過ごされてきた「ヤングケアラー」を社協・民協共催の地域福祉推進セミナーの場で学び深めました。



今こそ知るべき深刻な問題

2021年、流行語大賞にノミネートされた「ヤングケアラー」。2023年4月に設置されたこども家庭庁でも重点的な検討項目となっています。

「ブームと言えるほど社会的な注目を集めているヤングケアラー。今こそ、その実態をきちんと知り、地域で何ができるのかを考えてほしい」と話すのは齋藤真緒さん。長年にわたり家族による介護を研究してきた齋藤さんは、ある一人の若者ケアラーと出会い、問題の深刻さとサポートの大切さに気付いたと言います。

「学業を頑張りながら、楽しく自由な時間を満喫する。それが一般的な子どもや若者とされるなかで、ケアラーは身内のケアに追われて心身をすり減らしていく。

そのうち大好きだったはずの対象者に嫌悪感を抱き、そのこと自体にも傷ついてしまう。気持ちが通じ合う仲間が地域にいないことで、孤独感にもさいなまれてしまうのです」。

そこで齋藤さんは当事者を真ん中に置いた支援の必要性を考え、「子ども・若者ケアラーの声を届けようプロジェクト」を发起。ケアラー本人の立場から意見や企画を提案・発信する活動です。

休息も無く、出口も見えず…

厚生労働省では、ヤングケアラーについて「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている（18歳未満の）こども」と定義され

コラム

子どもにとってのコミュニティづくりの重要性

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-



つながりを持つ機会を作り、
一人ぼっちじゃないと伝えよう！

ヤングケアラーにとって、同じ地域に暮らすという安心感のある人々と対話を行うことはとても大切です。なかでも家族のケアをしている子ども、あるいは若者どうしの話し合いは、自身の体験に言葉を見つけるために役立ち、気持ちの整理や他者への相談に生かすことができます。

家族のケアから解放された方が、現在進行形の当事者に対して、お兄さんやお姉さんの立場で話を聞いてあげることも有効です。ケアラーと地域の人々がつながりを持てる機会を作り、決して一人ぼっちじゃないと伝えて、少しでも心の負担を軽くしてあげましょう。

ています（法令上の定義なし）。

「ケアラーを考える時、まわりの人たちは『今、どんなケアをしているか』に目を向けがちです。しかしケアラーにとって本当のつらさは、24時間ケアラーでい続けなければならないこと。不測の事態が起こればそれを最優先しなければならず、そんな状態がいつまで続くのかもわかりません。そうした過酷な状況を理解しておかなければ、ケアラーの立場に立って支えることはできないでしょう」

斎藤さんが「子ども・若者ケアラーの声を届けようプロジェクト」で出会った若者の中には、家庭内のケアを自分ではなく両親が行っているケースもあります。しかし、だからといってその若者の暮らしに影響がないわけではなく、多くの我慢を強いられています。ケアの対象者との関わりが直接か間接かではなく、ケアにかかわる生きづらさを抱えるすべての子ども・若者に寄り添っていく心構えが欠かせないのです。

自分自身の人生を歩める社会に

ヤングケアラーは友人作りや恋愛、就職といった人生の土台づくりが困難であること。18歳で途切れてし

まう支援を継続する必要性。介護離職の後、ケアから解放されても生きる力が奪われ社会復帰は難しいこと。斎藤さんはこうした事柄にも触れた上で、実際に相談に乗ろうとする時、心がけるべきことを話されました。それは「雑談9割、相談1割」のバランスです。

毎日ケアに追われる中で、ケアラーは自分が何をしたいのかを考える余裕もありません。雑談を通して潜在的な願いに気づくところから始める必要があるのです。ここで地域の出番です。挨拶をして、顔見知りになり、会話が生まれる。そうしてやっと相談の芽が顔を出す。段階を踏んで進めることが肝心です。

子どもや若者がSOSを発してからではなく、ケアのニーズを発見した時点から特定の誰かだけに負担が偏らないよう支援し、分散させる地域ぐるみでの「予防」と、行政・民間・地域それぞれの強みを生かして、ケアラー本人だけではなくその家族も含めた「家族まるごと支援」が必要です。

ケアラー自身がたくさんの人々に支えられることで、ケアを喜びとして感じられるようになり、自分自身の人生を生きられるようになります。今こそ、いのちとケアのどちらも大切にされる社会への転換を、あなたが住んでいるその地域からはじめましょう。

参加者の声

「雑談9割、相談1割」が印象に残りました。我々の居場所活動でも意識したいと思います。
(学区社協会長)



子ども・若者ケアラーがおかれている現実と、求められている支援を知りました。私たちにできることを考えたいと思います。
(学区民協会長)



ひとこと

ヤングケアラーが生じる背景として家族全体が支援を必要としている現実があることを理解し、個人の課題ではなく社会の問題として向き合うことが必要です。

少子高齢化が進む中、すべての人が人生のどこかでケアと向き合う時代です。「命を支えるケア」を真ん中に、みんなで支え合っていくコミュニティづくりを目指していきましょう。

孤立・孤独にむきあい、多様性が大切にされる地域をめざして

コロナ禍は、人々の生活や意識に大きな変化をもたらしました。孤立・孤独の問題が顕在化する中で、私たちはつながり続ける工夫を考え、今できることを積み重ねてきました。コロナ禍を経た今だからこそ見えてきたつながりの「紡ぎ直し」をレポートします。

みんなで機嫌よく暮らせる地域をめざして

アイデアがでたら、 とりあえずやってみよう

中京区 本能学区社会福祉協議会

学区民の9割はマンション住まいの地域です。地域との縁が少ない世帯が多くあることを課題に感じ、本能学区社協では多様な活動に取り組んでいます。例えば、気軽に多世代がつながれる「カフェ」、子育て・子育て世代を対象とした「ちびっ子広場」、地域で気になる高齢者を見守る「おとしより110番のいえ」、学区内の団体や福祉施設等が協力しながら共通課題に取り組むイベントなど…。コロナ禍にあっても、大切にされてきたことは、参加しやすいゆるやかなつながりでした。

感染対策のために施設と交流ができなくなってからは、施設利用者の方と季節の色紙やメッセージボードを使ってのやりとりを続けてきました。再会の機会が先日あり、一緒に乗り越えた喜びをわかちあいました。

「元通りとはいかず、完全とはいえないけれど、アイデアがでたらとりあえずやってみる。あかんかったら、やめたらいい。」と福本副会長。そんな柔軟性があるから不思議とアイデアが集まってくるそうです。

参加者の声



「家にいても一人でさみしいけど、ここに来たらみんなと話せる。ここで好きなことしゃべったらすっきりして元気になるねん。」



「この辺は子どもを水遊びさせる場所がないし、みんなもいるし、有難いです。」



さらに「これまでのノウハウがあるから、アイデアが生まれる。これまでのつながりがあるから、形がかわってもつながることができる。どんな形であっても社協活動を続けていたら、少しずつでもつながりが広がっているのを実感する。」と地道な取組の積み重ねが大切であるというメッセージをいただきました。



左から 木村さん(本能学区社協副会長)
福本さん(本能学区社協副会長)
乾さん(本能学区社協会長)

福祉施設との
交流の場がコロナ禍で
絶たれたため、
メッセージ交換による
交流へ



学区社協

季節の色紙とお手紙を毎月お届け



福祉施設

メッセージボードでお返事

念願の再開

「修道ふくしまつり」は 心のふるさと

東山区 修道学区社会福祉協議会

令和4年10月、東山総合支援学校で3年ぶりに開催。「修道ふくしまつり」は学区社協を中心に、東山総合支援学校の全面協力と、学区内の団体、障害者施設、児童施設、地域包括、区社協等との連携により平成23年から開催している出会いと交流の場です。

「みんなが楽しみに待っていてくれる」、「安心して参加してもらいたい」と役員さんの声。学校、関係者で何度もコロナ感染対策と役割分担などを話し合い、実現できました。

当日は、好天にも恵まれ、予想を超える200人以上が参加。少しでも安心して参加いただけるよう感染対策を徹底して、福祉施設等による販売や喫茶コーナー、脳トレ、保育園やシニアクラブの発表が行われました。「久しぶりやね、元気やった?」との声が聞こえ、参加者



同士の話も尽きず、会場は笑顔であふれていました。

また、生徒一人ひとりが役員と一緒に朝から準備・運営・片付けまで大活躍!参加者とスタッフの絆が深まる時間でした。令和5年度も10月の開催にむけて、準備を進めています。

参加者の声

「支援学校の生徒にとっても地域に関わる大切な機会であり、心のふるさとになっています。」



大岡さん
(修道学区社協会長)

運営者の声

「喜んでもらえて、開催して良かったなあ。無事に終わってホッとしたわ。」

誰でも参加できる居場所「インクル」

自分のペースで参加できる居心地よい場

下京区社会福祉協議会

“インクル”は、地域で暮らす様々な方々が、それぞれの立場を超えてつながることができる居場所です。「Come in」(意味:入ってくる、中に入る)、「来る」、「Inclusion」(意味:包含・包摂)を掛け合わせて命名されました。

とくに大切にしていることは、参加する方々とともに創っていくこと。みんなで相談しながら壁のペンキ塗りをするなど、休止中の中央保護所をリニューアルして素敵な空間を作り上げました。開催日には、参加者がお互いの得意なことを持ち寄り、お茶会・アロマスプレーづくり・朝食づくり(朝活)などを通して、楽しく過ごしています。

開催日が待ち遠しい様子で、参加者の中には「この

日だけは予定を空けて」とケアマネジャーにお願いしたり、開催日を忘れないようにと念入りにスタッフに予定を確認したりすることも。“インクル”の場では、自らが進んで参加し、心温まるつながりの輪が広がっています。



おにぎりづくり
「いつも一人やから
みんなで食べるとおいしい!」



地域で育てたお花を譲り受けて、
生け花に挑戦

ひとこと

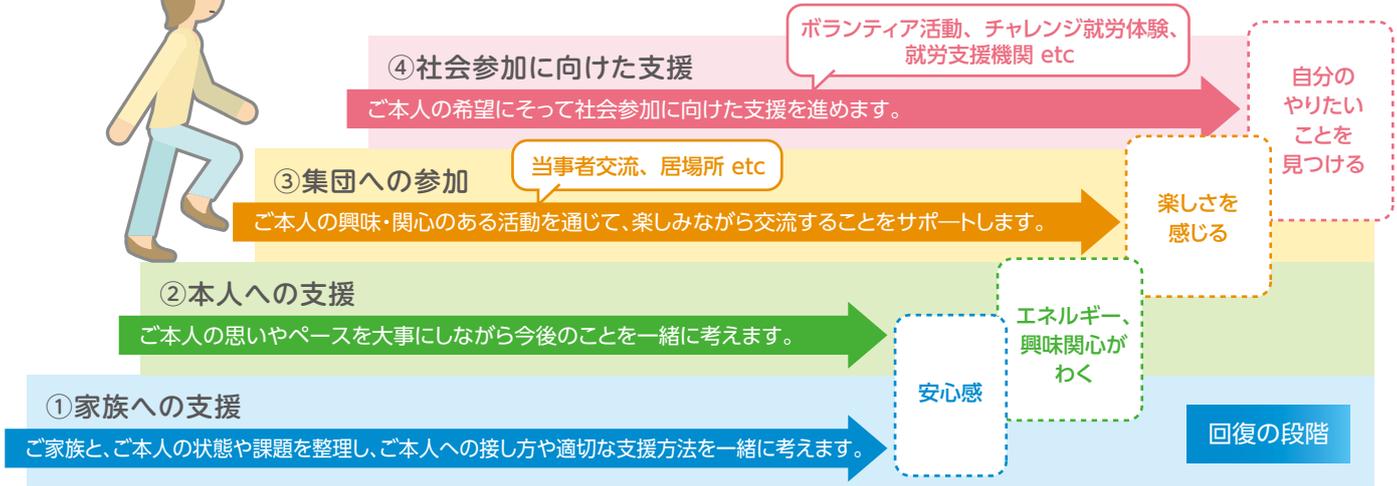
以前のような形での再開はやっぱりむずかしい。でも、困っている人に思いをよせて「これなら、みんなの力を借りればできそう」という声から、活動の再開につながることを教えていただきました。

“その人らしい” 社会参加に向けて

参加支援部では、ひきこもり状態等があり、自分から社会とつながることに難しさを感じるご本人の思いを大切に社会参加に向けた支援を行っています。

図のように、社会参加に向けて段階的に支援を進めるとともに、交流の場や地域の人とのボランティア活動、就労体験等の社協の総合力を活かした社会参加の場づくりにも力を入れています。

支援方法やゴールは人それぞれです



社協の総合力を活かした参加支援の取組

本人同士が気軽に交流できる場「ゆるっと交流会」

「自分と同じ状況の人と交流したい」「経験を聞きたい」という声に応じて、テーブルゲーム等を通じて気軽に交流でき、楽しめる場を実施しています。交流会で人との関わりに少し自信が付き他の活動への参加につながった等の声があります。



kyotoこころつながるプロジェクト「こっプロ」

2022年度は、“思い思いの形で参加できる”作品展とワークショップを実施しました。参加の形は様々で、それぞれが自分に合った形で参加を楽しめるように企画しています。2023年度も開催予定です！



区社協や地域の方と取り組むボランティア活動

地域の方や区社協が実施する様々な活動にボランティアとして参加できるようサポートしています。それぞれに合った役割を作り出す、ゆるやかにつながりあう等、一人ひとりに合った形での参加が進んでいます。



チャレンジ就労体験事業

直ちに一般就労が困難な方に対して、就労体験の機会を提供することにより、自立に向けたステップアップをサポートする事業を実施しています。また、より参加しやすく手ごたえを感じてもらえる場として一日単位での就労体験も実施しています。



福祉事業を始めるなら

賠償責任保険は必須です！

福祉事業者総合補償制度
「まごころワイド」をおすすめします！

充実の賠償責任補償制度、
安価な傷害見舞金補償制度など
必要なプランを組み合わせでご加入いただけます。

福祉専門チームによる安心の事故対応、京都市社会福祉協議会、
京都府社会福祉協議会が提供する福祉の現場に合った内容です。

詳しい補償内容はこちらまで

福祉の保険「まごころワイド」取扱代理店

京都の総合保険代理店 **SRM 株式会社 エスアールエム**

専用TEL **075-255-0883**

福祉の保険ホームページ **www.srm-net.co.jp/**

引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

この広告は保険の特徴を説明したものです。
詳しくは商品パンフレットをご覧ください。

ボランティア活動には「ボランティア保険」
イベントを開催されるときには「福祉行事保険」も併せてご利用ください。

INTERVIEW

インタビュー

今回は、家族相談からつながり、ゆるっと交流会、ボランティア活動など、一歩ずつ社会参加に踏み出している堀口さんに、伴走型支援を行うよりそい支援員の下村さんがインタビューをしました。



左：下村よりそい支援員 右：堀口さん

一歩踏み出す ～相談につながる～

下村：相談につながるまでのことを教えてください。
堀口：高校の時に外に出なくなりました。19歳の時、成人するのにこのままじゃやばいって思って、今から3～4年前に相談するようになりました。
下村：家族相談から始めて、その後一人で相談に来られるようになりましたね。
堀口：外に出るのが楽しくなってきた、一人で出掛けたり買い物したりも出来るようになりました。
下村：初めの頃の面談で一緒に目標を考えましたね。
堀口：「生活リズムを整える」「行ける場所を増やす」は出来てるかな。「やりたいことを見つける」も少しずつは、見つけられてきてるかな。

社会参加のはじまり

下村：よりそい支援員と一緒にいろんな活動に参加しましたね。印象的な活動は？

『ゆるっと交流会』～本人同士の交流の場～

堀口：人と関わる機会を増やすのと、ゲームをやりたいと思って参加しました。不安より参加したいって気持ちが大きかったです。

こっプロ出張ワークショップ ～好き・得意を活かして活躍～

堀口：自作のクロスワードを地域の方にやってもらいました。声を掛けるのは緊張したけど、ヒントを出したりして解けると、嬉しかったですね。

下京区社協 誰でも参加できる居場所『インクル』 ～参加者から担い手へ～ (5ページ参照)

下村：参加者からスタッフになったんですね。
堀口：スタッフとしての参加は、打合せ会議に参加するのが嬉しくて、作る側の楽しみや“一員感”を感じるようになりました。やってみてどんどん自信になっていきました。

下村：堀口さんにとってインクルってどんな場ですか？
堀口：2つ目の家みたいな感じです。

● 下京区社協職員 平田さんから

活躍していただき助かってます。困ってる方にサッとさりげなくフォローされるのが素敵です！



チャレンジ就労体験事業一日体験 ～参加のステップアップ～

堀口：“仕事”を意識した活動にも参加しました。インクルでのお手伝いがちょっと仕事っぽくて、そして楽しかったんで、一日体験もやれそうって思いました。

今の気持ち・これからのこと

下村：いろんな活動に参加する前と比べて、今どんな気持ちですか？
堀口：スケジュールが埋まっていくのが楽しみです。人の顔が見られたり、楽しい話ができたり、いろんな楽しみが増えてきました。
下村：これからやっていきたいことはありますか？
堀口：企画をするのが好きなので、作る側の活動をやっていきたいです。

一歩を踏み出しにくい方へのメッセージ

堀口：最初の一步が難しいと思います。自分も親とじゃないと一歩踏み出せなかったです。でも、行かなきゃよかったと思ったことはないの、まず一回行ってみるのが大事だと思います。

メガネのお悩み何でもご相談ください

「手持ちのメガネがぼやけて見えにくい」、「パソコン、スマホを使うと目が疲れる」、「紫外線が心配」、「メガネがすぐずれてしまう」など、何でもご相談ください。様々な用途に合わせたレンズ・フレームをご提案いたします。

定番のセット商品も
あります！

—————メガネセット (レンズ付き)—————
近視 遠視 乱視 老視 **¥4,900**より

—————両用メガネセット (レンズ付き)—————
遠近 中近 近々 **¥9,900**より

●営業時間 全店10:00～19:00 [全店水曜日定休] @ogiopticart

北大路店
075-417-3154
堀川北大路西へ100m

中立売店
075-441-3571
大宮中立売西へ50m

円町店
075-803-2880
西大路太子道バス停前

大宮高辻店
075-803-1722
大宮高辻西へ100m

東山二条店
075-762-1115
東山二条西へ100m

Optic art Ogi
オプティックアート オギ

※各種クレジットカードご利用頂けます。
※福祉眼鏡取扱

<https://www.oa-ogi.jp>

オプティックアート

検索

わたしたちのしあわせを考える 座談会

～当事者・当事者家族の思いシリーズ～

京都市福祉ボランティアセンターでは、発達障がい・セクシャルマイノリティ・ヤングケアラーの当事者が自身のしあわせについて語り合う「わたしたちのしあわせを考える座談会」を7月30日（日）に開催しました。それぞれのしあわせを目指して共に生きる社会において、一人ひとりができることを考える場となるよう、「自己理解としあわせ」「周囲とのつながりとしあわせ」など、3人のゲストスピーカーが多様な視点からしあわせについて感じることや考えを話しました。

自分を知ること、 そして、お互いを尊重し合うこと

発達障がい当事者である朝倉さんは、診断が出た後、自身で勉強する中で、これまで感じてきた暮らしにくさが説明できるようになり、過ごしやすくなったと話します。セクシャルマイノリティ（トランスジェンダー）当事者である大久保さんは、自身の性に対して家族の理解がなかなか得られず苦しかったと言い、理解が広がる上でロールモデルがいることの重要性や、自分自身も歩み寄り、お互いを思いやる関係性の大切さを感じたそうです。

「その人」全体と向き合う

ヤングケアラー当事者である河西さんは、「ヤングケアラーは自分の中の一面だけど、自分のそれ以外の面が置き去りにされる場面もある」と、当事者の「多面性」という視点から語りました。「発達障がいでも困りの程度や種類は人それぞれ」と話すのは朝倉さん。大久保さんも「男女それぞれいろんな人がいるように、トランスジェンダーの人もそれぞれだ」と述べるなど、当事者の中の「多様性」もキーワードにあがりました。

当事者を特別な存在と捉えるのではなく、「その人」として全体を見て寄り添っていくことの重要性について意見が交わされました。

参加者の声

座談会終了後、
多くの声が寄せられました。

自分自身について理解を深め、他者に対して共感できる部分を一つでも多く見つけることが大事だと感じた。

誰かの困りに対して「あるよね」で終わらず、その人の思いをしっかりとしきと聴き、寄り添える人になりたい。



私たちは福祉系の様々な広報制作を行っております。

ご相談は下記電話、メールからお気軽にお問い合わせください。



PR広報の
コンサルティング



WEBサイト
企画制作運営～
システム開発



団体、企業の
ブランディング



紙媒体の
企画・デザイン



イメージ写真
プロデュース・撮影



取材～文章作成
コピーライティング





左から 白水さん(ファンリテーター)、大久保さん、朝倉さん、河西さん

セクシャルマイノリティ当事者

大久保 暁 さん
 暁project合同会社CEO

LGBTQは多様な性のかたちを表す言葉で、その一人ひとりにそれぞれの経験や思いがあります。すべての人が多様な一人として自分らしく過ごす上で、お互いに相手のことを思いやり寄り添うことが大切だと改めて感じています。

一人の当事者として「幸せになれるよ」と今後もメッセージを伝えていくことで、悩んでいる誰かの希望やロールモデルになれると嬉しいです。

発達障がい当事者

朝倉 美保 さん
 NPO法人Reframe代表理事

障がいや診断の有無に関わらず、しんどさを感じている人に周りの誰かが気付き、声を掛けていけるかが重要だと感じます。また、支援者として子どもと関わる中で、逆に子どもたちに助けられていると感じる場面もあります。

お互いに支え合う関係性の中で、「わたしはわたしらしく、あなたはあなたらしく」過ごせる場づくりに今後も取り組んでいきたいです。

ヤングケアラー当事者

河西 優 さん
 子ども・若者ケアラーの声を届けようプロジェクト発起人

さまざまな当事者が持つ、人としての多面性に目を向けることが大切である一方で、それぞれが抱えるニーズを捉えることも必要なので、そのバランスが難しいと感じます。また、誰もが何らかの当事者としての一面を持っているのかもしれないとも思います。

困りごとやそれ以外のことも含めて、まずは相手の話をしっかりと聴くということを大事にしていきたいです。

おわりに

「しあわせ」をテーマに語り合う中で、それぞれが「当事者」であり「その人」であるということ、そして、お互いに相手を思いやる大切さを共有できた座談会となりました。京都市福祉ボランティアセンターでは、今後もさまざまな立場の人の声を発信する機会づくりに取り組んでいきます。

主催 京都市福祉ボランティアセンター <http://v.hitomachi-kyoto.jp/>

歴史ある大本山 **東福寺のお墓** **秋のお墓 お彼岸 無料見学会・仏事相談会**
8月26日(土)~9月24日(日)
 宗旨・宗派 不問 ◆ご見学・資料請求はお電話にて◆ **永代供養塔**
 納骨や墓じまいをお考えの方、終活相談にもすぐに対応しております。(生前予約可)
永代供養塔「結縁之塔」新塔完成
 大切なお墓の管理、**墓じまい**をしたい、**子孫に負担**をかけたくない、**お寺との付き合いが面倒**(寄付金等)、**納骨**を考えている、**終活**のご相談 **お困りではありませんか?**

永代供養は新しいお墓のかたちです。
 信頼できるお寺に供養を託して安心してご先祖様にお眠りいただけます。

東福寺善慈院 永代供養塔「結縁之塔」受付センター
0120-696-000

お電話でも **無料相談** 受付中

認知症のある人の「ために」から 認知症のある人と「ともに」へ

～認知症介護実践研修からつながる当事者と地域～

社会福祉研修・介護実習普及センターでは、福祉・介護分野などの専門職や有識者のご協力の下、多くの方々に必要な知識や技術を学んでいただいています。

この度、専門職対象の認知症介護実践研修の講師として「地域支援」に関する科目を担当いただいている橋本千恵さんに、認知症の当事者の方（以下「当事者」という）が地域で安心して暮らすための地域活動の現状と将来などについて、お話を伺いました。

当事者と関わって、感じていること

無意識に“当事者の方を「助けが必要な人として見ていたのでは？」と振り返る中で、専門職の私たちも地域の一員として、対等に課題を一緒に考え、取り組むことで暮らしやすい地域になると思い活動しています。



橋本 千恵 さん

京都市認知症介護指導者。長年、高齢者介護に携わり、誰もが楽しく、地域の中で暮らし続けられるために「チーム上京！」など、様々な活動を通して、地域とのつながり作りを呼びかけられています。

当事者の方たちの現状と、安心して地域で暮らせる将来に向けての思い

認知症はネガティブなイメージが先行し、当事者の方やご家族はすべてにおいて自信を失っておられるのが、現状です。

今後、認知症になっても「できることがたくさんある」「夢を実現する力があるんだ」と、認知症への理解がポジティブな方向へ変化していければと思います。当事者の方たちは、楽しく活動することから始めています。「病気であっても、地域で自身の力を発揮し活躍する」それを応援していきたいと私は思っています。

認知症介護指導者から一言

京都市の認知症介護の実践者同士、また住民同士として、これからの地域について一緒に考え、取り組んでいくことができればうれしいです。

Facebook「チーム上京！」から



「チーム上京！ベンチを探せ！
西陣ご近所さんぽ」出発式の様子

社会福祉研修・介護実習普及センターでは、専門職対象の研修のほか、市民の方を対象とした講座なども開催しています。

他の業界から介護職に転職してこられた方でも学びやすい研修を実施していますので、ぜひ当センターの研修や講座をご活用ください。

<研修情報はこちら>

みやこけんしゅう 検索



地域の中で「私らしく生きていく」

この春、グループホームかたぎはらに入居されている方々とよもぎ摘みの手伝いのため大原野神社近くの畑に行きました。これは、地域を盛り上げようとされている「大原野よもぎ倶楽部」さんからお声掛けいただいたものです。

入居者の方が作業をしていると、「何してるの?」と観光客の方に気軽に話しかけられました。初対面とは思えないほど和気あいあいと会話が弾み、よもぎ倶楽部の方から「本当に認知症の方ですか?」と尋ねられる程でした。

この方は普段の生活では自分の思いを上手に伝えるのが難しい方です。これらから、認知症の方が地域と繋がることの必要さを強く感じ、認知症のあるなしに関わらず接する事は至って自然な事だと改めて感じます。こうして、かたぎはらではその人らしい暮らしを支えることを大切にしています。

私たちは、認知症に対しての誤った認識や偏見の解消を目指し、地域への普及啓発や交流に取り組んでいます。「地域の中でその人らしく暮らす」そのためのケアや関係づくりを目指しています。



かたぎはらの「かたピー」
覚えてね!

かたぎはらのマスコットキャラクター
「かたピー」
認知症啓発の発信に活躍しています。

啓発事業・交流事業の様子



バレンタインの交流では子供たちから手作りチョコレートをプレゼントしていただきました。



入場制限なしの秋のふれあいまつりでは100名近くの来場者がありました。



施設近くのお寺で
地域の方を対象とした
「認知症講座」

小規模多機能かたぎはら・グループホームかたぎはら・かたぎはらケアプラザセンターのホームページにて地域との交流の様子を随時更新しています。



京都市長寿すこやかセンター

若年性認知症本人交流会 「おれんじサロン ひと・まち」

若年性認知症本人交流会「おれんじサロン ひと・まち」は、若年性認知症の方とご家族が仲間と出会い交流するカフェで、本人ミーティングを中心に開催しています。本人ミーティングでは、本人のやってみたいことや生活の中で工夫している情報等、様々なことについて語り合っています。

【対象】

若年性認知症(65歳未満で認知症を発症)の市民の方とその家族
・送迎はありません
・介護サービスを利用していない方を優先

【申込】 事前予約制

【開催日】 月1~2回開催 第2・4水曜日 午後2時~3時30分

【費用】 無料

【開催場所】 ひと・まち交流館 京都

Let's Try! 仲間の協力があれば、
きっと出来る!

家族のために



本人が「やってみよう!」と思うことを、
参加者みんなで意見を出し合って
実現に向けて動いています!



プチ旅

おれんじサロン



紹介動画



Facebook

京都市長寿すこやかセンター 公式LINE

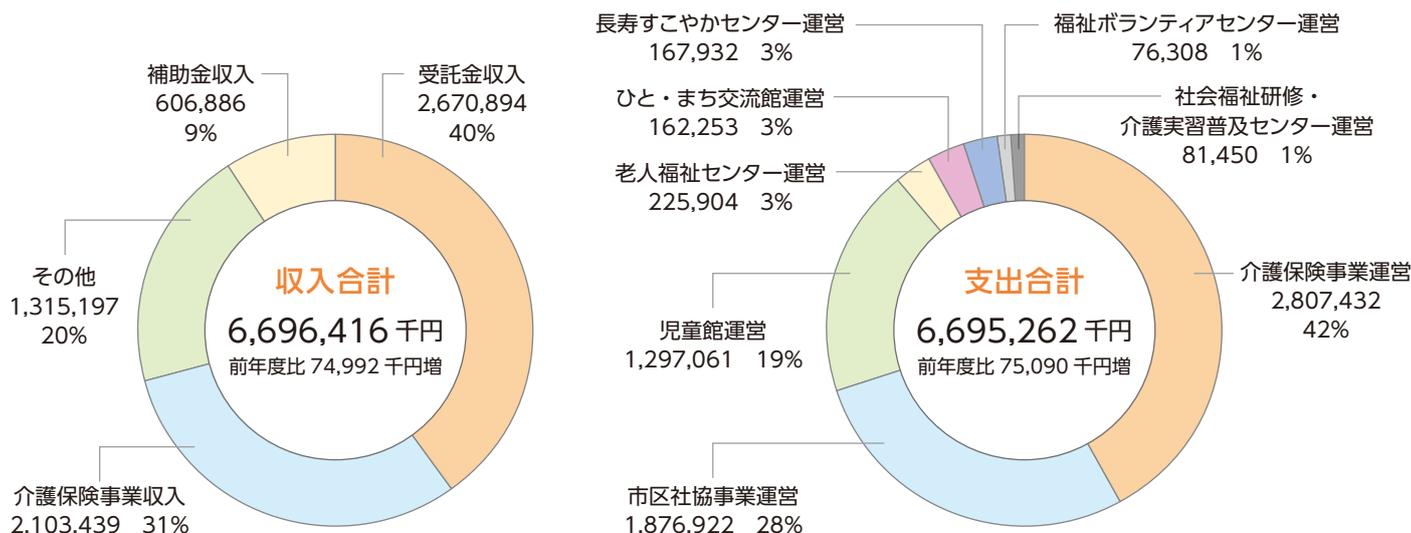


QRコードを
読み取るか、
IDで検索して
ください

@873gekjq

令和4年度 決算報告

※収支差額は繰越。その他事業の詳しい内容や決算の詳細は、本会ホームページをご覧ください。（単位：千円）



令和5年度 事業計画

令和5年度も、市・区・学区社協の三層の連携と、民生委員をはじめ関係機関、団体、施設等との協働のもと「共に生きる福祉のまち『京都』の実現」を目指し、以下の重点目標を推進します。

新たな情勢を踏まえた推進計画の実行

- 今日的な課題を踏まえた重点項目の確実な実行
- 重層的支援体制を見据えた部署横断的な取組

住民主体の地域福祉活動の促進

- コロナ禍からの再興、安定的な活動支援
- ネットワークを活かした協働の実践の創出

質の高い生活支援やサービス等の充実

- 寄り添い支援や当事者を主体とした参加支援
- 日常生活自立支援事業と成年後見制度の連携

公益的な使命に応える取組の推進

- 運営施設の地域福祉的展開
- 法人後見や実習受入等、公益的取組の推進

持続可能な法人運営

- 経営計画の検討、安定的運営、有事対策強化
- 徹底した経費削減、ICT化促進、人材育成・定着



令和5年4月1日、住居確保給付金の一部制度改正がありました。

今回の制度改正で

- ・収入要件、資産要件の算定範囲が変更となりました。
- ・職業訓練受講給付金との併給が恒久的に可能となりました。
- ・求職活動要件が変更となりました。
(離職、廃業、休業等の理由により**就労**を目指す方と、休業等の理由により**事業再生**を目指す方で申請方法や求職活動要件が異なります。)
- ・再支給の対象が変更になりました。

京都市にお住まいの方(又はお住まいになる予定の方)の申請は京都市社会福祉協議会で受け付けております。

申請書類は窓口でのお渡しとなりますが、窓口は、原則、予約制となりますので、必ず、下記までお電話をお願いします。

社会福祉法人 京都市社会福祉協議会
地域福祉推進室生活支援部
住居確保給付金担当

TEL 075-708-7405

受付時間 9:00~16:00
(土日祝及び12月29日から1月3日は除く)

住居確保給付金
について詳しくは
こちら

